

北九州市都市計画マスタープラン改定版（素案）に関する 市民意見募集の結果について【報告】

本市では、平成 15 年 11 月に北九州市都市計画マスタープランを策定し、街なか居住などコンパクトなまちづくりを都市計画の基本的な方針として明確にし、諸施策を総合的に展開してきた。

本市を取り巻く社会・経済情勢は刻々と変化しており、特に、急速な人口減少と超高齢化に対応した持続可能なまちづくりの必要性が高まっていることや昨年度、都市計画マスタープランの一部とみなされる「北九州市立地適正化計画」が策定されたことなどを受け、北九州市都市計画マスタープランを 14 年ぶりに改定するものである。

本年 8 月 1 日の建設建築委員会における「改定版（素案）」について、市民意見及び公述を募集し、市民から寄せられた意見とこれらを踏まえた市の考え方について報告するもの。

1. 意見募集期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 15 日（火）～平成 29 年 9 月 14 日（木）

場所：建築都市局都市計画課、市民文化スポーツ局広聴課、区役所総務企画課、出張所

2. 意見提出の状況

提出者：16 人（持参 11 人、電子メール 5 人）

提出意見数：19 件

3. 意見の概要と市の考え方について 資料 1 (P3～5)

項目	件数
都市空間形成の基本方向について	4
斜面地の居住誘導について	3
都市防災について	3
公共交通の利用促進について	2
北九州空港の活用について	3
宿泊施設について	1
若者の地元雇用について	1
地域別構想について	1
市民を主役とした地域づくりについて	1
合 計	19

4. 公聴会について

日時：平成29年9月22日（金） 19:00～19:30

場所：生涯学習総合センター

公述人：1名（傍聴人：1名）

5. 公述の概要と市の考え方について 資料2 (P6)

項目	件数
臨海部の土地利用について	1

6. 対応の方向について

項目	意見	公述
① 計画に掲載済み	5	1
② 追加・修正あり	0	
③ 追加・修正なし	13	
（1）賛意を示す意見	（2）	
（2）質問・提案・要望	（11）	
④ その他	1	
合計	19	1

7. 改定版（素案）の修正内容 資料3 (P7)

第2部 都市計画の基本方針

第1章 都市計画の基本理念 2 都市の規模に関する考え方 （1）人口

8. 改定スケジュール

平成29年12月 都市計画審議会「コンパクトなまちづくり専門小委員会」で
改定案の検討

平成30年 2月 都市計画審議会の意見聴取

3月 議会報告

3月 都市計画マスタープランの公表

【意見の内容】

- 1 賛意や共感を述べた意見
- 2 賛意を示し、取組み強化を求める意見
- 3 賛意を示し、今後の進め方や追加の考えを述べた意見
- 4 計画内容に対して修正を求める意見
- 5 その他の意見

【対応の方向】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
 - (1) 賛意を示す意見
 - (2) 質問・提案・要望
- ④ その他

No	項目	意見の概要	市の考え方	意見内容	対応方向
1	都市空間形成の基本方向について	都市計画マスタープランの方向性は今後の市にとって必要である。	北九州市都市計画マスタープランは、北九州市基本構想・基本計画「元気発進！北九州」プランが示す将来像を実現するために、課題に応じたまちづくりの目標と都市計画の方針を定めるものです。	1	③ (1)
2		都市計画マスタープランの重点ポイントについて、内容が控えめのように感じる。もっと攻めの姿勢で良いのではないか。	まちづくりの目標や都市構造・都市空間を実現するために、8つの分野について取組みに関する方針を定め、各分野が連携して効果的なまちづくりに取り組みます。	2	③ (1)
3		今後、本市の人口は将来にわたって減少することは間違いないと思われる、社会インフラを含む都市の構造をコンパクトにする方向性は良いと思う。一方、本市の活性化に資する企業立地等については、本市全域を対象に取り組む等メリハリをもった対応が必要である。	市街化調整区域における市街化や大規模開発は原則として抑制していきますが、市の成長戦略に基づく拠点整備や集落の活性化を行う場合は、周辺環境に配慮しながら進めていきます。	2	①
4		「まちなか居住」や「コンパクトなまちづくり」には賛成。特に、郊外部での生活を支えるのは、「生活拠点」で、今後はさらにその役割が高まると考えられるので、「生活拠点」のイメージやあり方を示した方がよい。	生活拠点を含む「街なか」のイメージとして、①多くの人が便利に永く住むことができ、コミュニティ活動も活発に行われえる、②高齢者や障害のある人、子育て世代も暮らしやすい、③歩いて便利に暮らせるなどを示しています。	2	①
5	斜面地の居住誘導について	斜面地から平地の安全な場所への居住誘導を行ない、コンパクトなまちを作るには、行政の強力な財政支援が必要である。いくら都心に魅力があっても、実際に移り住むためには資金が必要である。	「北九州市立地適正化計画」では、街なかに住みたいと思う転入者を応援する仕組みづくりなどの具体的な施策を実施しています。コンパクトなまちづくりの実現に向けて、まちづくりに関わる様々な分野が連携して取り組みます。	2	③ (2)
6		八幡東区の斜面地の検討地域に住まわれている方々を移動させるとなった場合にどの地域に住むことになるのか、また検討地域の住宅がこれから空き家となったときにどう対応していくのか。	長期的なまちづくりの観点から、街なか居住を促進するもので、強制的に居住者や住宅を移転させるものではありません。空き家対策については、平成28年に「北九州市空き家等対策計画」を策定し、総合的かつ計画的に施策を推進しています。	5	③ (2)

No	項目	意見の概要	市の考え方	意見内容	対応方向
7	斜面地の居住誘導について	急傾斜地居住者の対策についての提案(平野小学校跡地を含むエリアに商業施設、教育・福祉関連施設、集合住宅等の複合建築物を建築)	具体的な計画については、都市計画の基本方針に基づき、計画段階から市民、行政、多様な主体が連携して協働によるまちづくりが進むことが望ましいと考えています。	3	③ ②
8	都市防災について	なぜ自然災害が少ないことをアピールしないのか。	本市の地震災害は過去の全国的な発生箇所から見ても少ないですが、対策は必要です。本市における主な気象災害は、台風、梅雨前線による大雨、暴風、高波、高潮災害です。本市の背後には急峻な山がせまり、一般にこう配がきつくなっているため、大雨時には雨水の急速な流下に伴う浸水や、山崩れなどの斜面崩壊も多いという特性をもっています。過去の開発圧力により、斜面地やハザード区域に指定された区域においても、一部で市街化が進行しています。将来的には、斜面地から平地・安全な場所への居住誘導が望まれます。	5	③ ②
9		本計画は、概ね20年先を見越した計画であるが、「第4部 部門別の基本方針 8. 都市防災」について、異常気象や近い将来起こりうる南海地震等、非日常下での街づくりの方向性又は具体的方策について充実させる必要があるのではないか。	自然災害対策の推進にあたっては、想定を超える災害により防ぎきれない事態が起こることを前提に、いかに被害を小さくするのかということを中心に、これまで取り組んできたハード対策とともに、的確な情報提供や速やかで確実な避難行動、自主防災組織による助け合いなどのソフト対策を重層的に組み合わせた「減災」対策を進めます。	3	③ ②
10		「まちなか」や「拠点」の防災対策は特に進めて、斜面地や郊外の集落からの移住を促進するとともに、郊外で災害が発生した場合は、人口や産業等を勘案したインフラの重要性と、災害復旧に要する費用を勘案した上で、復旧を最低限にする、あきらめる等の選択も必要である。	また、風水害や地震災害、火災などに対して、人的被害や物的被害を最小限に抑える応急対策、災害復旧などに取り組むこととしています。	3	③ ②
11	公共交通の利用促進について	JRの駅が多いのはすごいこと。利便性が高いということを強みにしないこと。	都心・副都心、地域拠点では、交通結節機能を持つ駅などを中心に、市民生活の向上や都市活力の増進に向けた産業・交流の核となる拠点づくりを進めます。また、街なかの周縁部などに位置する鉄軌道駅周辺について、公共交通軸沿線型の市街地形成を検討していきます。	2	①
12		広い歩道や比較的便利な公共交通といったハード面が充実しても、なかなかな人は車利用を減らして公共交通に切り替えることなどにはできないと思うので、コンパクトなまちづくりを進めるにあたっては、ソフト面の取組も充実させて頂きたい。	公共交通の利用促進を進めるために、交通結節点の強化など快適な移動を実現する取り組みに加え、自発的な公共交通への行動変化を促すソフト的な交通施策も推進していきます。	2	①

No	項目	意見の概要	市の考え方	意見内容	対応方向
13	北九州空港の活用について	北九州空港は24時間離発着可能。せつかく便利な空港なので、空港の利用者を増やすために様々な施策を打つべきではないか。	本市のアジアに近い地理的優位性や港湾、空港、鉄道、高速道路などの交通基盤を活かした広域交通・物流拠点都市づくりを進めるため、交通基盤の整備と結節機能の強化により円滑な交通ネットワークの形成に取り組めます。	2	③ (2)
14		北九州空港へのアクセスについて、足立トンネルの軌道系や、モノレールの延伸など、新たな交通機関を考えていくべきではないか。		3	③ (2)
15		北九州空港へのアクセス手段として、地下鉄が出来たらよい。		3	③ (2)
16	宿泊施設について	人を呼び込むためにはホテルの整備も必要ではないか。	都市計画の目標の1つに「訪れたいまち、住みたくなるまちをつくる」を掲げ、北九州市の特性を活かした観光まちづくりを進め、都市の魅力とイメージを高める取り組みを進めていきます。	2	③ (2)
17	若者の地元雇用について	働きやすい街ということで、これから働く若者をターゲットにしないといけない。	都市計画の目標の1つに「にぎわいと活力があるまちをつくる」を掲げ、アジアの先端産業都市の実現を目指した次世代産業の育成や特区などを活かした産業振興や雇用の確保、街の魅力や快適な生活環境の向上につながる街なかの産業振興に取り組めます。	2	①
18	地域別構想について	いつまでも「区」にとらわれずに、市として大きな方向性を示すことがマスタープランの役割ではないでしょうか。地域別に目標を立てることは5市合併の後遺症を引きずることになるので、区別の構想は不要である。	各区が、旧市の地域特性を活かした多様な区行政を展開し、良い意味での個性的なコミュニティや地域間競争につなげていることなどの理由により、各行政区ごとに地域別構想を策定しています。	4	④
19	市民を主役とした地域づくりについて	後継者不足に悩む地域組織についての提案(市民センター単位の新たな組織)	市民、行政、多様な主体が連携したまちづくりを実現するため、協働の仕組みづくりや環境整備に取り組めます。なお、住民主体の地域づくり・まちづくりを促進するための地域の活動主体は、小学校区単位を基本に設置された「まちづくり協議会」を考えています。	5	③ (2)

【意見の内容】

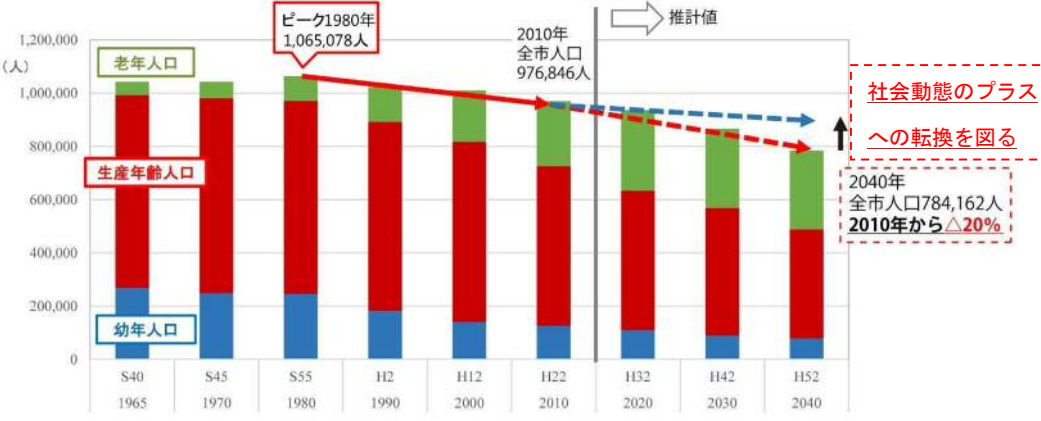
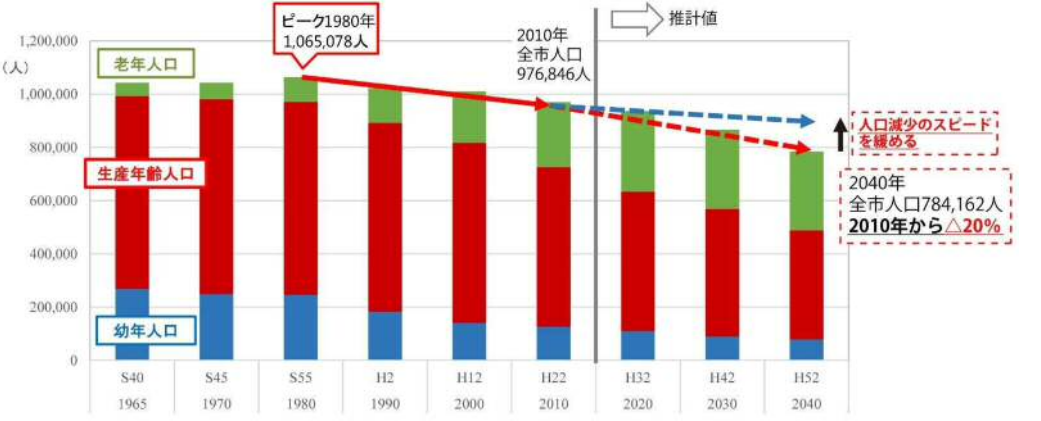
- 1 賛意や共感を述べた意見
- 2 賛意を示し、取組み強化を求める意見
- 3 賛意を示し、今後の進め方や追加の考えを述べた意見
- 4 計画内容に対して修正を求める意見
- 5 その他の意見

【対応の方向】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
 - (1) 賛意を示す意見
 - (2) 質問・提案・要望
- ④ その他

No	項目	意見の概要	市の考え方	意見内容	対応方向
1	臨海部の土地利用について	コンパクトな街なか中心の効率的な人口集約的都市の志向は大賛成。全国の政令都市の中で有数の海岸延長を持つ海峡都市でありながら、市民や来訪者・観光外国人が容易にアクセスできて触れ合える海辺が極めて少ない。これからの都市計画プランにおいては、そういう面を配慮していただきたい。	企業遊休地など臨海部の工業系の低・未利用地について、都市機能の集積や公共交通のアクセスが良いなど連続性のある街づくりを図りやすい区域では、企業動向を踏まえ必要に応じて工業系から商業系などへの土地利用転換を進めていきます。また、臨海部の緑化を進め、水辺景観の向上、水辺を活用した身近なレクリエーションに対応した公園・緑地の整備を進めていきます。	3	①

北九州市都市計画マスタープラン改定版（素案）の修正内容

<p>修正後</p>	<p>第2部 都市計画の基本方針</p> <p>第1章 都市計画の基本理念</p> <p>2 都市の規模に関する考え方</p> <p>(1)人口</p> <p>本市は、社会動態及び自然動態が減少していることにより、引き続き人口減少が想定されることから、人口減少に備えたまちづくりが必要です。</p> <p>一方、将来にわたって活力ある北九州市を維持していくため、「国や県と一体となり、更にはオール北九州による多方面からの地方創生の取り組みを行うことで、<u>社会動態のプラスへの転換に挑戦する(参考：北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略)</u>」こととしています。</p>  <p>図 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口の見通しと市の考え方</p>
<p>修正前</p>	<p>(1)人口</p> <p>本市は、社会動態及び自然動態が減少していることにより、引き続き人口減少が想定されることから、人口減少に備えたまちづくりが必要です。</p> <p>一方、将来にわたって活力ある北九州市を維持していくため、「国や県と一体となり、更にはオール北九州による多方面からの地方創生の取り組みを行うことで、<u>社会動態をプラスに転じさせ、人口減少のスピードを緩めることに挑戦する(北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略より抜粋)</u>」こととしています。</p>  <p>図 国立社会保障・人口問題研究所による将来人口の見通しと市の考え方</p>

※下線部が修正箇所